

第1回「福祉・環境のまち部会」 会議録

1 開催日 平成30年6月1日（金）

2 場所 新見市役所 第4委員会室

3 出席状況 出席7名、欠席1名

部会長	早瀬 正弘	出席	副会長	西田 勝江	出席
委員	大月 礼子	欠席	委員	岡崎 愛	出席
委員	田原 裕之	出席	委員	清水真理子	出席
委員	川上 博文	出席	委員	足立 卓也	出席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 1名

5 傍聴者

1名

6 議事内容

1 開会

2 あいさつ

部会長挨拶

3 協議

5～6月に向けテーマを決め、3月に提言を出すようにしたい。各委員の発言要旨は次のとおり。

（参考として、部会長が介護ポイント制等の資料を配布。）

- ・部会長が配付された資料にある介護ポイント制を研究したい。
- ・働いていない母親たちは、何か役に立ちたいと思っている。ポイント制におかあさん方も参加すればよいのでは。おかあさん方も元気になればみんな元気になる。市も元気になる。
- ・高齢者施策も大切であるが、若者が地元に残るための施策が必要である。
- ・空き家など倒壊危険家屋が環境的にも良くない。
- ・ひとり暮らしの高齢者は食事に困る状況。ポイント制によりボランティアで話し相手や食事の手助けができれば元気な高齢者のやる気にもつながる。
ゴミの分別に困難を感じている高齢者が多い。何か良い方法はないかと思う。

- ・発達障害者の認定率の高さに驚いている。
- ・消防団の団員数の減少が問題となっている。団活動の魅力が見えない。井原市などは商店などで消防団員への割引などがある。井原市は消防団の消防力も高い。
- ・不妊症治療について、補助金などもあるが治療費は高額である。何か良い方法はないか。
- ・本市にとって高齢者福祉は重要であると考え。元気な高齢者が増えて介護ボランティアを行い、削減できたお金で子育て支援に活用してはどうか。
- ・介護ポイントについて考えていきたい。宅児ボランティアを介護ポイントに組み込んでいければと思う。
- ・介助によるポイント制は危険が伴う。安全性の確保が難しい。市の助成などで介護士の確保につなげるべきだ。
- ・消防団は世代間交流の場である。地域活性化のツールになりうる。
- ・ポイント制がよい。市民全員が使えるポイント制にしてはどうか。新見市版のポイント制を考えてはどうかと思う。
- ・新見公立大学も完全4年制となる。地域枠も設けられると聞いた。地元の人材が残るように協力しないといけない。
- ・次回までに、事務局の方で次のことを調べておいて欲しい。
 - ①ポイント制に活用できる財源があるのか。（地域支援事業交付金は現在もあるのか。あれば活用条件など）
 - ②介護ポイント制の活用事例、先進事例（できれば近隣自治体に視察にいきたい）
- ・老人介護のみのポイント制に限定すべきではない。子どもに対する支援も入れるべきではないか。
- ・予算の有無で考えるのではなく、部会としては、行政に対して提案すれば良いと考える。その中で活用できる部分を行政が選んで考えることとなる。とにかく新見市が暮らしやすくなる提案をすればよい。